

第4回富山市有機農業推進協議会次第

日時：令和6年2月13日（火）14時00分から

場所：営農サポートセンター会議棟1階大会議室

1 開 会

2 報告事項

・これまでの取組み状況について

資料1

3 意見交換

(1) 富山市有機農業実施計画（案）について

資料2

(2) オーガニックビレッジ宣言（案）について

資料3

(3) 富山県みどりの食料システム基本計画の特定区域設定について

資料4

(4) 今後の予定について

資料5

4 その他

令和6年度第1回富山市有機農業推進協議会

令和6年 月 日（ ） 時から

資料1 これまでの取り組み状況

年度	月	日	内容	備考
令和5年	4	10	みどりの食料システム戦略推進事業補助金割当内示	10,000千円
		10	補助金交付申請及び交付決定前着手届提出	
		27	富山市有機農業実施計画策定支援業務委託契約	7,700千円
	5	8	○第1回富山市有機農業推進協議会	
		9	①実証ほ場設置	3ヶ所
		18	みどりの食料システム戦略推進事業補助金交付決定	10,000千円
	6	15	①有機米栽培機械作業実演会	市内農業者
	7	19	①有機えごま栽培講習会	市内農業者
		25	富山市有機農業実施計画策定支援業務委託変更契約	9,724千円
	8	2	①有機農業の意義及び事例に関する講演会	市内農業者
		4	①有機栽培事例研修及び農業者ワークショップ	市内農業者
		17	○第2回富山市有機農業推進協議会	
	10	16～	②えごま油飲用モニター及びアンケート調査	市体協協力
	11	5	②ワンデージャックフェスタでの有機農産物出品及びアンケート	
		6～7	○先進地視察（兵庫県豊岡市）	
		14	○第3回富山市有機農業推進協議会	
		23	②里山交流フェスタでの有機農産物出品及びアンケート	
	12	4～8	②有機米及び富山えごまの学校給食	市内公立小中学校
令和6年	1	18～	③有機農産物加工食品開発に関する調査	市内40社
		24	①有機JAS認証取得勉強会	
	2	13	○第4回富山市有機農業推進協議会	

①:生産拡大の取組 ②:消費拡大の取組 ③:加工品開発の取組



有機農業推進協議会(5/8、8/17、11/14)



有機米栽培作業実演会(6/15)



有機えごま栽培講習会(7/19)



有機米生育状況
アイガモロボット使用
(土遊野)10/2現在10/3収穫



有機米生育状況
みのる式除草機使用
(小原営農センター)10/6収穫



えごま生育状況
無農薬・無化学肥料栽培
(山崎客土会)10/16収穫

資料1 これまでの取り組み状況

えごま油飲用モニターアンケート調査結果

■実施概要



配布の様子

10/25 アルペンスポーツクラブ

19PG 430本配布

■アンケートの集計結果【別紙 P1】

里山交流フェスタ出店と消費者ニーズ調査結果

■実施概要

- ・日時: 令和5年11月23日(祝) 10時～14時
- ・場所: 八尾ゆめの森交流施設
ゆうゆう館・中山間活性化施設多目的ホール

協力店	主な出品
(有)小原営農センター	・白米、玄米 ・大豆、黒米 ・お餅
(有)土遊野	・白米、玄米 ・きな粉 ・ダイシモチ麦 ・米粉パンケーキミックス
あおば農業協同組合	・えごま油
桐谷有機の里づくりの会	・玄米

■当日の様子



■アンケートの集計結果【別紙 P5】

資料1 これまでの取り組み状況

有機米及び富山えごまの学校給食

有機米と富山えごまの学校給食

- ・有機米 265袋(10kg/袋)
受け取り、配布 11/24, 27, 29
- ・富山えごま 109袋(100g/袋)
納品 11/14、配布11/15～22



- ・実施日時: 12月4日(月)～12月8日(金)
- ・実施場所: 市内の富山市立小学校64校、中学校25校、幼稚園3園 各校1回 約33,000食分



12/4 桜谷小学校の様子(5年1組)

- ・配布資料: 別紙のとおり

今後の課題

- 有機米の確保 …生産拡大の必要性
- 集荷・配達 …トラックや人工の確保、農協・市場の関わり方
- 事業費の軽減 …通常米利用との価格差補填への切り替え
- 情報の格差 …全校で実施したため、学校ごとに対応に差があった
同じ学校内でも情報提供の方法に差があった
- 炊飯の状態 …炊飯事業者、学校での炊飯など、炊き上がりに差があった

資料1 これまでの取り組み状況

有機農産物加工食品開発に関するアンケート調査結果

■ 実施概要

- ・調査方法: WEBまたはFAXによる回答
- ・調査期間: 令和6年1月18日～1月31日
- ・回答数: 10社

■ アンケートの集計結果【別紙 P10】

有機JAS認証取得勉強会の実施状況

■ 実施概要

- ・日時: 令和6年1月24日(水) 10時から
- ・場所: JAあおば 大沢野営農経済センター 2階会議室

■ 次第

- 1 開 会
- 2 講師紹介
日本オーガニックアンドナチュラルフーズ協会
理事長 高橋 勉 氏
- 3 講演会
- 4 質疑応答
- 5 その他



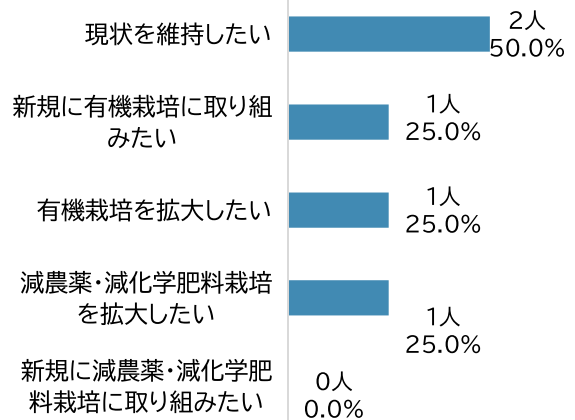
■ 参加者

・14名



【有機農業への取組について】

n=4

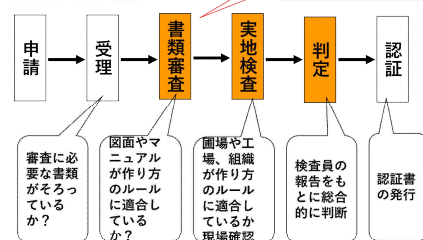


有機農業のもっとも簡単な定義

堆肥で土づくりを行う「循環型農業」

- 考え方1. 循環するものを優先して使う(ワンウェイ製品を避ける)
- 考え方2. 小さな生きものを意識する(生態系バランスを整える)。
- 考え方3. 遺伝子技術は使わない(伝統的な技術を重視)。

※ 審査の流れ



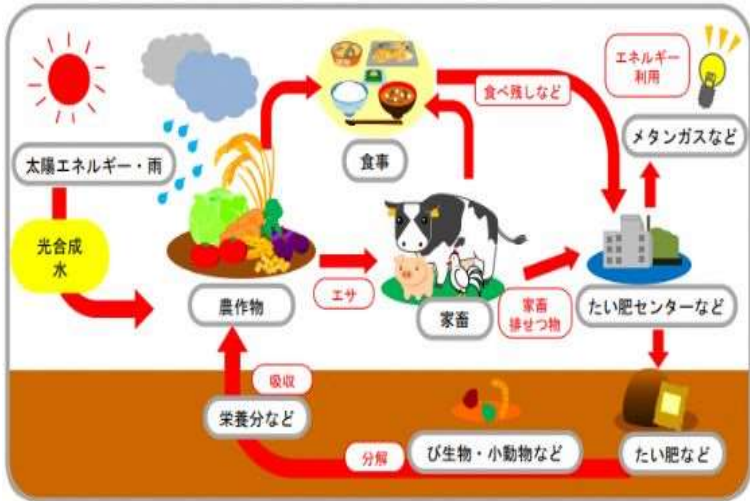
※年に一回認証継続調査を受ける。

きょう きゅうしょく とやま ゆうきさいばい こめ つか
 今日の給食は富山えごまと有機栽培のお米が使われています！



かがくひりょう かがくのうやく かんきょう
 化学肥料や化学農薬などを使わない、環境
 のうぎょう かに
 にやさしい農業のやり方です。

ゆうきのうぎょう
 <有機農業のサイクル>



ゆうきのうぎょう
 <有機農業とSDGs>

<p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>持続可能な農業を取り入れることが、持続可能な食料生産につながります</p>	<p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<p>有機栽培で作られた食品を購入することが持続可能な食料生産につながります</p>
<p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>化学肥料・化学農薬を減らして農業をすることが、みんなの健康な生活づくりにつながります</p>	<p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>作物を作るための土を適切に管理することが、気候変動やその影響を減らすことにつながります</p>
<p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>有機農業を進めることが、化学肥料・化学農薬を水路になが流さないことにつながります</p>	<p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<p>有機農業を進めることが、たくさんの種類の生き物が生育・生息することができる場所を守ることにつながります</p>

こんかい しょくざい つく
 今回の食材はこんなところで作られています！

ゆうき おおさわのちいき どちく
■有機コシヒカリ 大沢野地域 (土地区など)

たう
 田植え



じょそう
 アイガモロボットによる除草



しゅうかくまえ
 収穫前



しゅうかく
 収穫



とやま おおさわのちいき にししおのちく
■富山えごま 大沢野地域 (西塩野地区など)

はな
 えごまの花



えごまの実はここからとれます

うえつけ
 植付



ちゅうこうばいど じょそう
 中耕培土 (除草)



しゅうかく
 収穫



ちゅうこうばいど
 ※中耕培土
 あいだ たがや たがや つち かがもと たがや
 うねとうねの間を耕したり、耕した土を株元にかぶせたりすること。耕す
 しんせん こうき い ひりょう こうか あ さくもつ そだ
 ことによって、新鮮な空気を入れて肥料の効果を上げ、作物の育ちをよくします

【別紙】アンケート調査結果

- 1 えごま油飲用モニターアンケート調査.....P1
- 2 消費者ニーズ調査.....P5
- 3 有機農産物加工食品開発に関するアンケート調査.....P10

えごま油の飲用に関するアンケート調査

調査結果

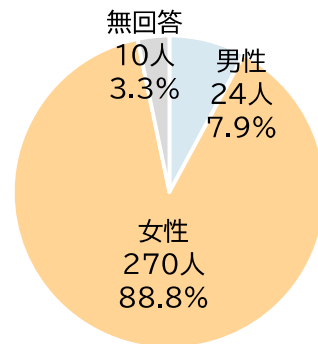
調査対象: 中高年健康づくりコースを中心としたプログラムの参加者とその講師
 調査方法: 1日1回約2g(ティースプーン1杯)を飲んでいただき、約1か月後にアンケートに記入
 調査期間: 令和5年11月6日(月)~12月27日(水)えごま油配布
 配布数: えごま油430本
 回答数: 304票

問1 あなたご自身のことについて、次の項目ごとにお答えください。(〇はひとつ)

(1)性別

「男性」が7.9%、「女性」が88.8%となっている。

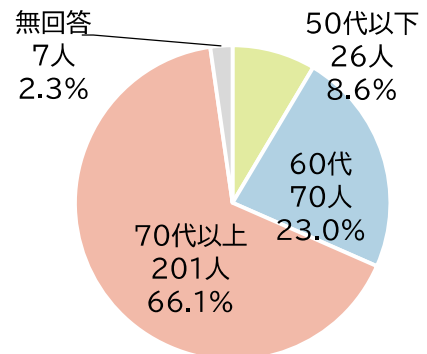
	回答数	割合
男性	24人	7.9%
女性	270人	88.8%
その他	0人	0.0%
無回答	10人	3.3%
合計	304人	100%



(2)年齢

「70代以上」が最も多く6割以上となっている。

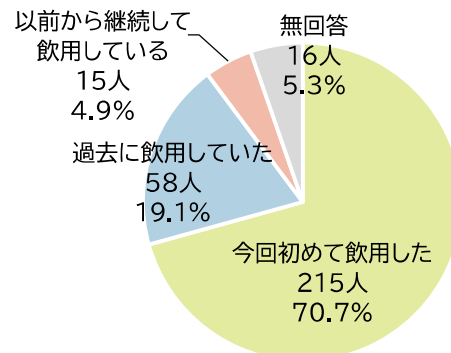
	回答数	割合
50代以下	26人	8.6%
60代	70人	23.0%
70代以上	201人	66.1%
無回答	7人	2.3%
合計	304人	100%



(3)えごま油のこれまでの飲用

「今回初めて飲用した」が最も多く70.7%となっている。

	回答数	割合
今回初めて飲用した	215人	70.7%
過去に飲用していた	58人	19.1%
以前から継続して飲用している	15人	4.9%
無回答	16人	5.3%
合計	304人	100%

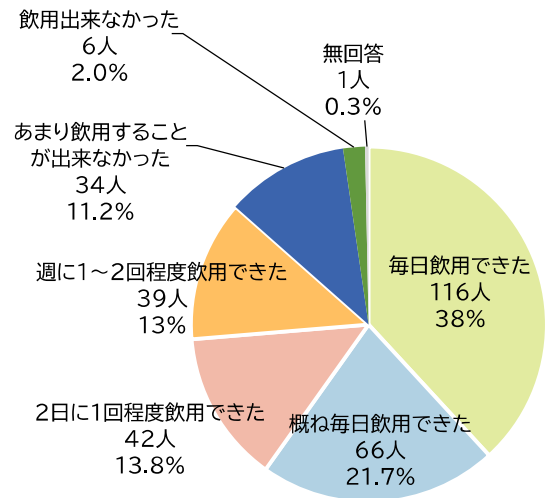


問2 飲用についてお答えください。(○はひとつ)

(1) 小さい1杯(約2g)をどのくらいの頻度で飲用できましたか。

「毎日飲用できた」が38.2%で、次いで「概ね毎日飲用できた」が21.7%となっている。

	回答数	割合
毎日飲用できた	116人	38.2%
概ね毎日飲用できた	66人	21.7%
2日に1回程度飲用できた	42人	13.8%
週に1~2回程度飲用できた	39人	12.8%
あまり飲用することが出来なかった	34人	11.2%
飲用出来なかった	6人	2.0%
無回答	1人	0.3%
合計	304人	100%



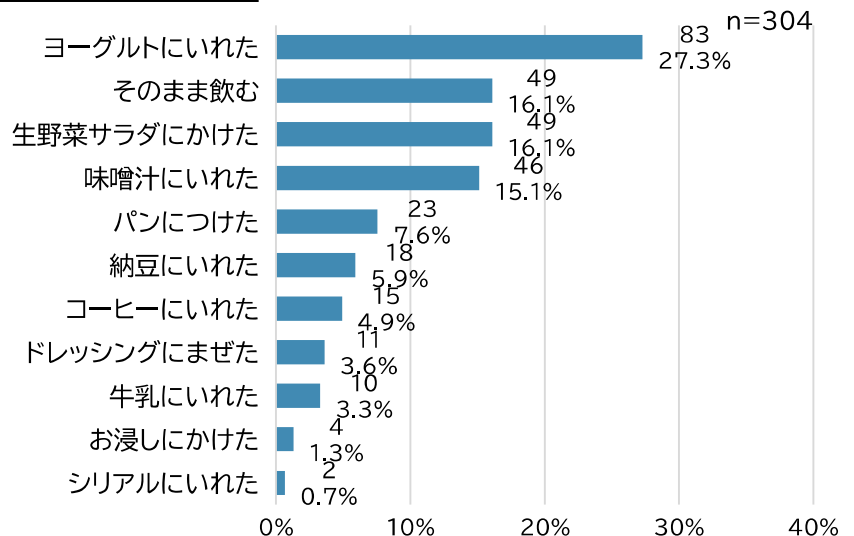
(2) えごま油を主にどのように飲用されましたか。

「ヨーグルトにいれた」が27.3%、次いで「そのまま飲む」「生野菜サラダにかけた」が16.1%となっている。

	回答数	割合
ヨーグルトにいれた	83	27.3%
そのまま飲む	49	16.1%
生野菜サラダにかけた	49	16.1%
味噌汁にいれた	46	15.1%
パンにつけた	23	7.6%
納豆にいれた	18	5.9%
コーヒーにいれた	15	4.9%
ドレッシングにまぜた	11	3.6%
牛乳にいれた	10	3.3%
お浸しにかけた	4	1.3%
シリアルにいれた	2	0.7%

<その他の飲用方法>

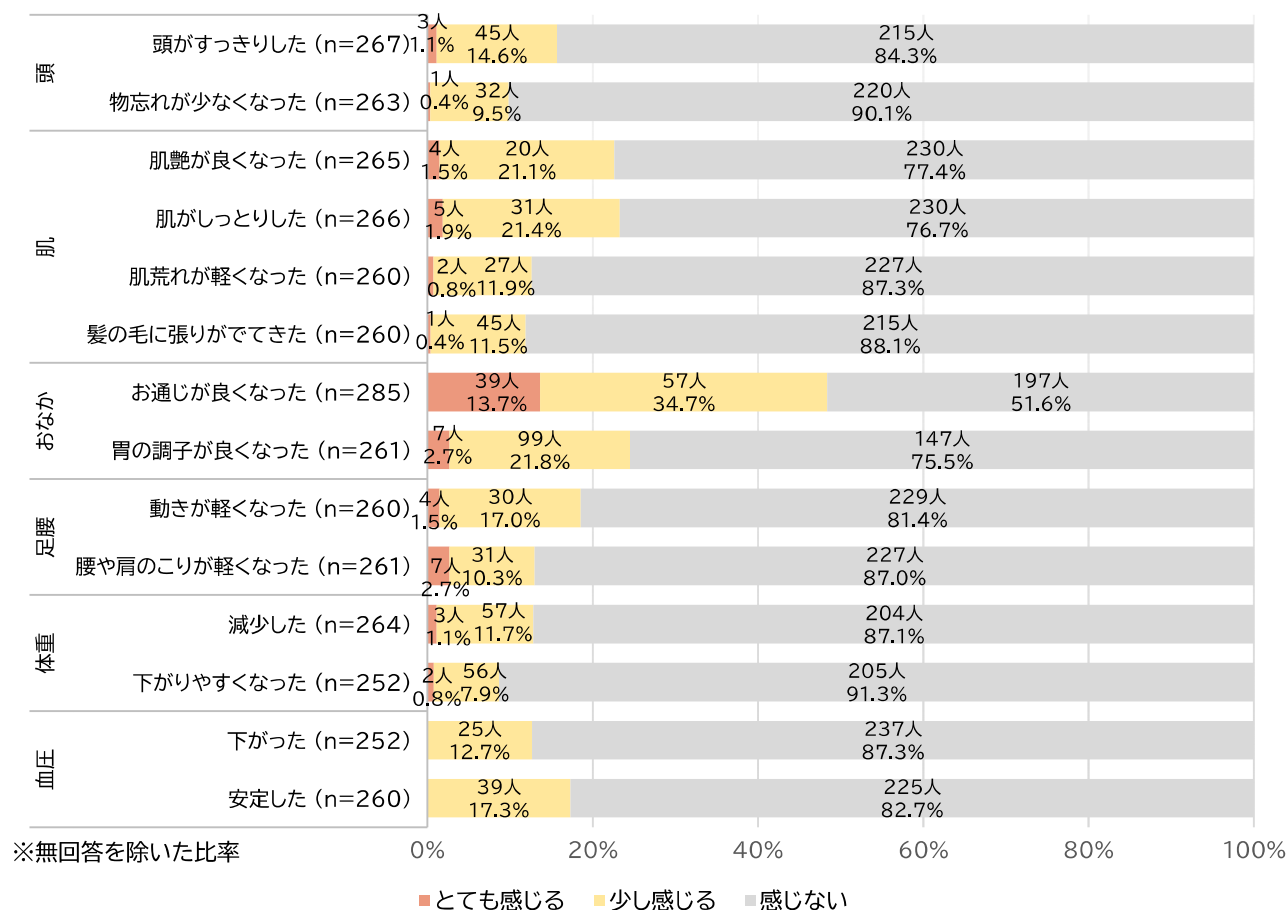
豆乳に入れた
トマトジュースに入れた
甘酒にいれた
スムージーにいれる
青汁にいれた
スープにいれた
肉にかける、出汁に混ぜる
鍋料理に入れた
カレーに入れた
炒め物にいれた
パスタにかける
揚げ物にかけた
蜂蜜と一緒に使った
ジャムに混ぜた



問3 飲用してどの程度の改善効果を感じましたか。(各項目で○はひとつ)

「お通じが良くなった」が53.1%「胃の調子が良くなった」が24.6%と「おなか」に関する改善効果を感じた方が最も多く、次いで、「肌がしっとりした」23.8%、「肌艶が良くなった」23.1%と「肌」に関する効果を感じた方が多い結果となった。

	とても感じる	少し感じる	感じない	無回答	合計	
頭	頭がすっきりした	3人	39人	225人	37人	304人
	物忘れが少なくなった	1人	25人	237人	41人	304人
肌	肌艶が良くなった	4人	56人	205人	39人	304人
	肌がしっとりした	5人	57人	204人	38人	304人
	肌荒れが軽くなった	2人	31人	227人	44人	304人
	髪の毛に張りがでてきた	1人	30人	229人	44人	304人
おなか	お通じが良くなった	39人	99人	147人	19人	304人
	胃の調子が良くなった	7人	57人	197人	43人	304人
足腰	動きが軽くなった	4人	45人	215人	40人	304人
	腰や肩のこりが軽くなった	7人	27人	227人	43人	304人
体重	減少した	3人	31人	230人	40人	304人
	下がりやすくなった	2人	20人	230人	52人	304人
血圧	下がった	0人	32人	220人	52人	304人
	安定した	0人	45人	215人	44人	304人



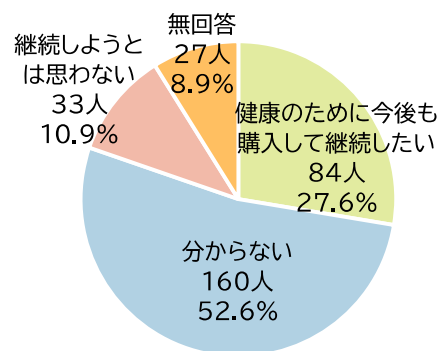
○その他お気づきになった効果があればご記入ください。

主な意見
<便通> お通じが良くなりすぎた。 下痢をした。
<肌> 肌は良くなりました。
<睡眠> 眠りが深くなった気がする 良く眠れるようになった。
<その他> 脚の太ももの筋肉が柔軟になり、膝の曲げ伸ばしがとても楽になった。 家族が風邪をひいた時にうつらなかった。 気分が良くなった。前向きになった。 健診でコレステロール値が正常値になったので継続してます。 体調が良くなった。

問4 今後の飲用について、お考えをお聞かせください。(○はひとつ)

「分からない」が52.6%で、次に「健康のために今後も購入して継続したい」が27.6%となっている。

	回答数	割合
健康のために今後も購入して継続したい	84人	27.6%
分からない	160人	52.6%
継続しようとは思わない	33人	10.9%
無回答	27人	8.9%
合計	304人	100%



主な意見
<継続希望> 以前から使用している。これからも使いたい。 健康のために今後も時々購入したい。
<におい・味> 味が好きではない。 飲みにくかった。
<価格> 価格が高いと思うから。 ちょっと価格が気になります。
<効果> 効果を感じられない。 毎日飲用する習慣がつかなかったため、効果を感じる事が難しかった。
<その他> 近くにお店があると便利かな？と思います。 少しおながやゆるむので困ったので。

有機農産物に関する消費者ニーズアンケート調査結果

調査方法: イベント出店における対面調査

調査日: 2023年11月5日(日)ワンデージャックフェスタ

2023年11月23日(木)第2回「とやま里山フェスタin八尾」

2023年11月23日(木)2023食でつながる輪

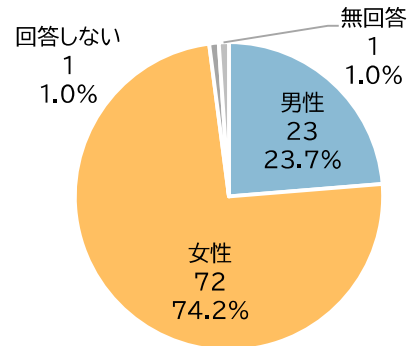
回答数: 97票(ワンデージャックフェスタ42票、とやま里山フェスタ15票、食でつながる輪40票)

問1 あなたご自身のことについてお答えください。(〇はひとつ)

(1) 性別

「男性」が23.7%、「女性」が74.2%となっている。

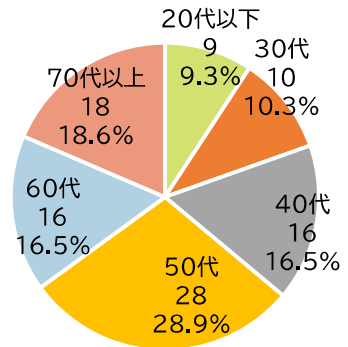
	回答数	割合
男性	23	23.7%
女性	72	74.2%
回答しない	1	1.0%
無回答	1	1.0%
合計	97	100%



(2) 年齢

「50代」が28.9%「70代以上」が18.6%となっている。

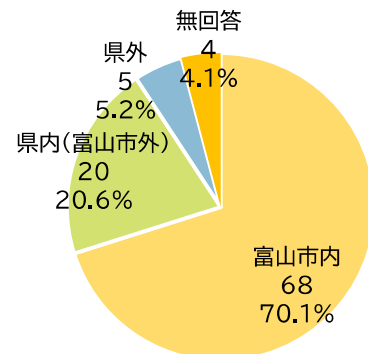
	回答数	割合
20代以下	9	9.3%
30代	10	10.3%
40代	16	16.5%
50代	28	28.9%
60代	16	16.5%
70代以上	18	18.6%
無回答	0	0.0%
合計	97	100%



(3) 居住地

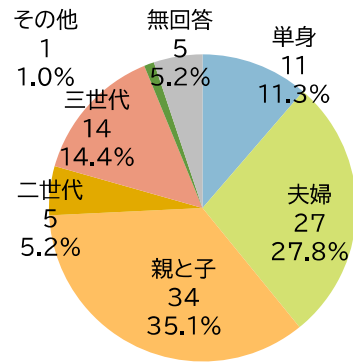
70.1%が「富山市内」在住となっている。

	回答数	割合
富山市内	68	70.1%
県内(富山市外)	20	20.6%
県外	5	5.2%
無回答	4	4.1%
合計	97	100%



(4) 家族構成
「親子」が35.1%「夫婦」が27.8%となっている。

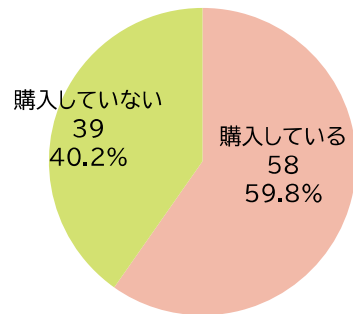
	回答数	割合
単身	11	11.3%
夫婦	27	27.8%
親子	34	35.1%
二世帯	5	5.2%
三世帯	14	14.4%
その他	1	1.0%
無回答	5	5.2%
合計	97	100%



問2 普段から有機農産物を購入していますか(どちらかに○)。また、その理由をお聞かせください。

「購入している」が59.8%となっている。

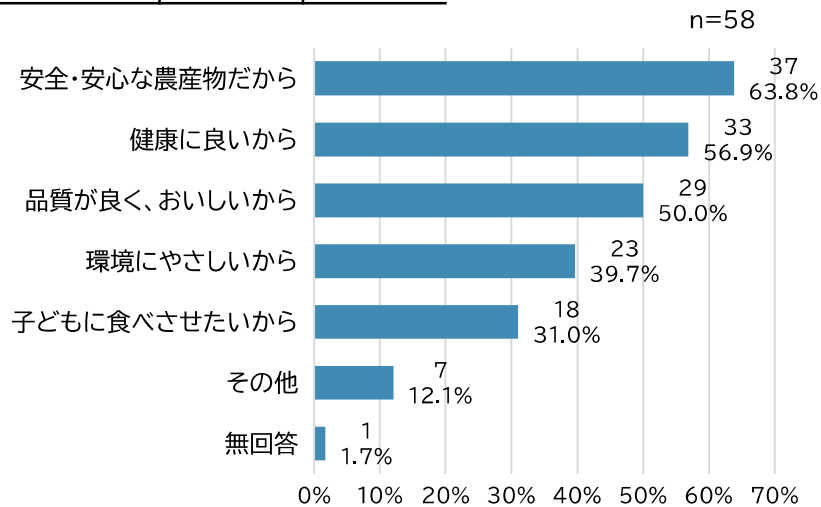
	回答数	割合
購入している	58	59.8%
購入していない	39	40.2%
無回答	0	0.0%
合計	97	100%



2-1 購入している理由(当てはまるものすべてに○)

「安全・安心な農産物だから」が最も多く63.8%、次いで「健康に良いから」が56.9%となっている。

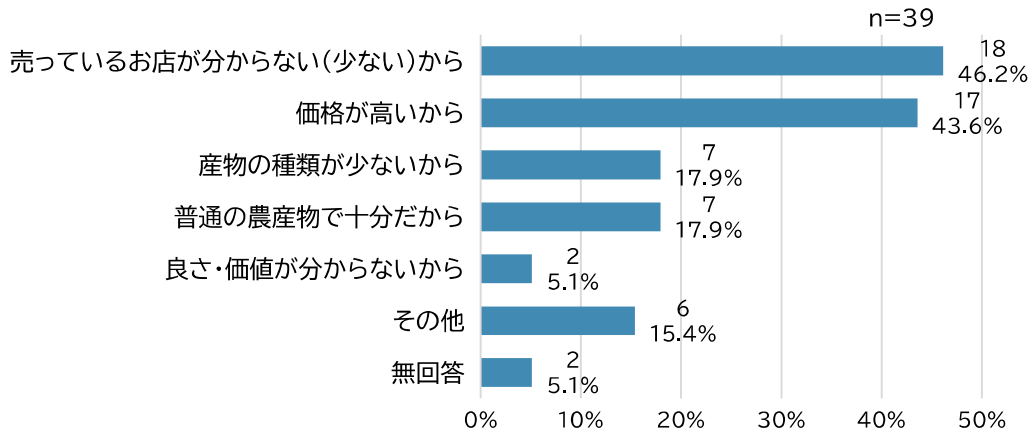
	回答数	割合
安全・安心な農産物だから	37	63.8%
健康に良いから	33	56.9%
品質が良く、おいしいから	29	50.0%
環境にやさしいから	23	39.7%
子どもに食べさせたいから	18	31.0%
その他	7	12.1%
無回答	1	1.7%



2-2 購入していない理由(当てはまるものすべてに○)

「売っているお店が分からない(少ない)から」が最も多く46.2%、次いで「価格が高いから」が43.6%となっている。

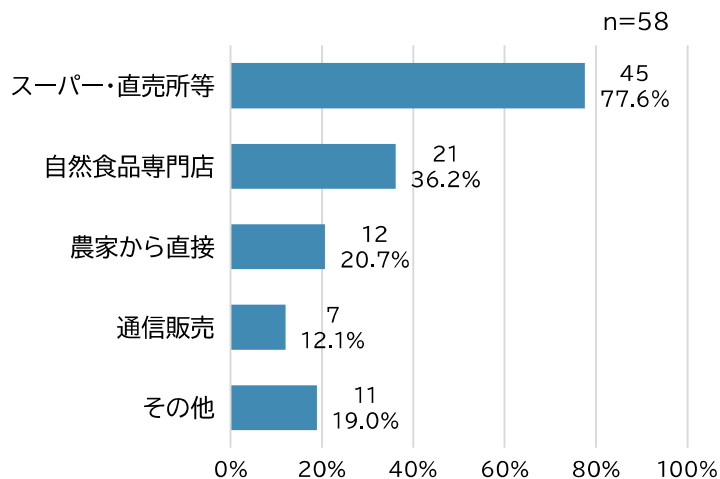
	n=39	
	回答数	割合
売っているお店が分からない(少ない)から	18	46.2%
価格が高いから	17	43.6%
産物の種類が少ないから	7	17.9%
普通の農産物で十分だから	7	17.9%
良さ・価値が分からないから	2	5.1%
その他	6	15.4%
無回答	2	5.1%



問3 どこで有機農産物を購入しますか。(当てはまるもの全てに○)

「スーパー・直売所等」が最も多く77.6%、次いで「自然食品専門店」が36.2%となっている。

	n=58	
	回答数	割合
スーパー・直売所等	45	77.6%
自然食品専門店	21	36.2%
農家から直接	12	20.7%
通信販売	7	12.1%
その他	11	19.0%
無回答	0	0.0%

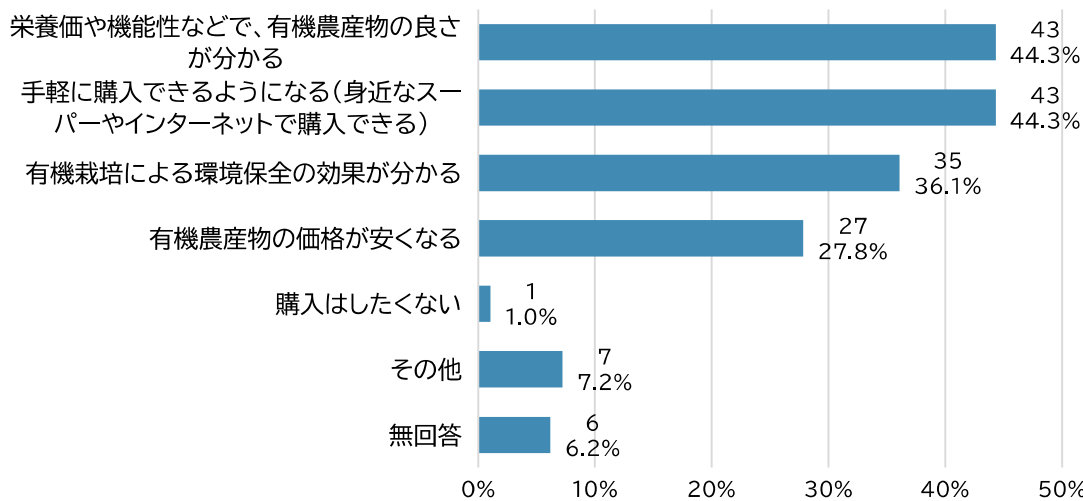


問4 今後、有機農産物を購入したくなる理由があればお聞かせください。(当てはまるもの全てに○)

「栄養価や機能性などで、有機農産物の良さが分かる」と「手軽に購入できるようになる(身近なスーパーやインターネットで購入できる)」が44.3%となっている。

n=97

	回答数	割合
栄養価や機能性などで、有機農産物の良さが分かる	43	44.3%
手軽に購入できるようになる(身近なスーパーやインターネットで購入できる)	43	44.3%
有機栽培による環境保全の効果が分かる	35	36.1%
有機農産物の価格が安くなる	27	27.8%
購入はしたくない	1	1.0%
その他	7	7.2%
無回答	6	6.2%



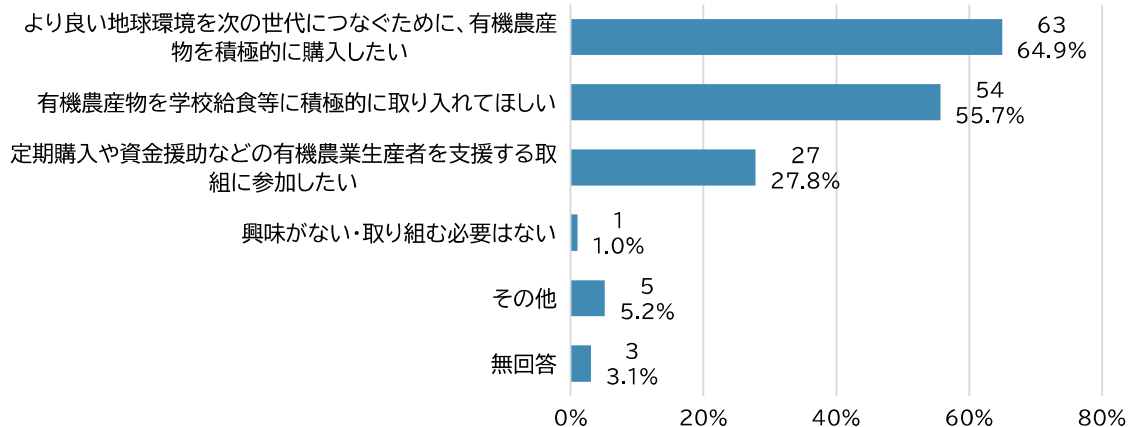
問5 富山市では、環境にやさしく、持続可能な農業への取組として、有機農産物の生産拡大を目指しています。

この取組について、あなたのお考えをお聞かせください。(当てはまるもの全てに○)

64.9%が「より良い地球環境を次の世代につなぐために、有機農産物を積極的に購入したい」となっている。

n=97

	回答数	割合
より良い地球環境を次の世代につなぐために、有機農産物を積極的に購入したい	63	64.9%
有機農産物を学校給食等に積極的に取り入れてほしい	54	55.7%
定期購入や資金援助などの有機農業生産者を支援する取組に参加したい	27	27.8%
興味がない・取り組む必要はない	1	1.0%
その他	5	5.2%
無回答	3	3.1%



問6 有機農業や有機農産物のイメージについて、ご自由に記入してください。

自由意見	年代	購入の有無
今の食生活で満足しているので、あまり興味がない	20代以下	購入していない
健康によい	20代以下	購入していない
安心安全だからです	20代以下	購入していない
これからの農業は有機だと思うので頑張って欲しいです	30代	購入していない
身体に良さそう	40代	購入していない
身体にやさしい。安心安全	50代	購入していない
特別なもの、というイメージでしたが、古来からのやり方に戻って欲しいと思います。自分でも出来ることならやってみみたい気持ちもあります。	50代	購入している
安全で体に良い	50代	購入していない
安いといいです	50代	購入していない
もっと安くなるといいです	50代	購入している
野菜くずなど捨ててしまいます物もたいひと使用し、環境に優しく、微生物も育て、土も元気になる	60代	購入している
良いことと思いますが、時間と手間がかかります。その分高くなります。それを知って買えるかどうかと思います。	60代	購入していない
価格が少し高いイメージです	60代	購入していない
自然と人にやさしい	60代	購入している
値段が高いとイメージがありますが、色んな所での販売をして買いたと思います。試食もかねて…	60代	購入していない
からだによいということと安全だからとり入れています	70代以上	購入している
健康によさそう	70代以上	購入している
将来の農産物として可能性が高い。生産性もあると思う。	70代以上	購入していない
自然に良いものを使っている。少し高い。	70代以上	購入していない
安心安全な食物	70代以上	購入している

富山市有機農産物加工食品開発に関する調査

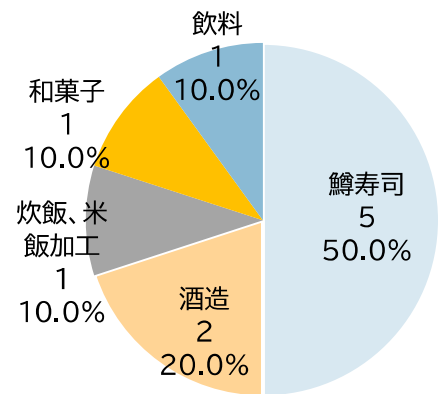
調査結果

調査方法:WEBまたはFAXによる回答
 調査期間:令和6年1月18日~1月31日
 回答数:10社

問1 貴社名・業種について

鱈寿司製造が5件となっている。

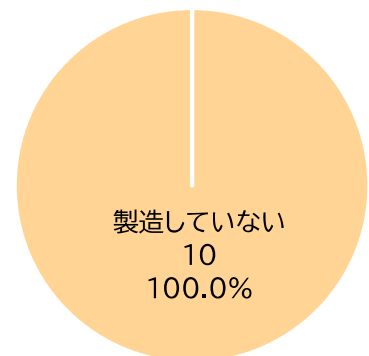
	回答数	割合
鱈寿司	5	50.0%
酒造	2	20.0%
炊飯、米飯加工	1	10.0%
和菓子	1	10.0%
飲料	1	10.0%
合計	10	100%



問2 有機農産物の取扱いについてお伺いたします。

(1)貴社において、有機農産物を原材料とした加工食品を製造していますか。
 全社が「製造していない」と回答した。

	回答数	割合
製造している	0	0.0%
製造していない	10	100%
合計	10	100%



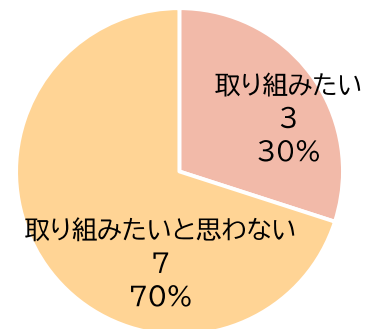
問3 富山市で有機JAS取組面積の拡大を目指している「有機米」や「えごま」の加工食品開発について

お考えをお聞かせください。

(1)有機加工食品の生産は規格(案内裏面参照)を満たすことが求められますが、有機米や有機えごまを原料とした加工食品の開発に取り組みたいと思いますか。また、その理由をお聞かせください。

3割が「取り組みたい」と回答した。

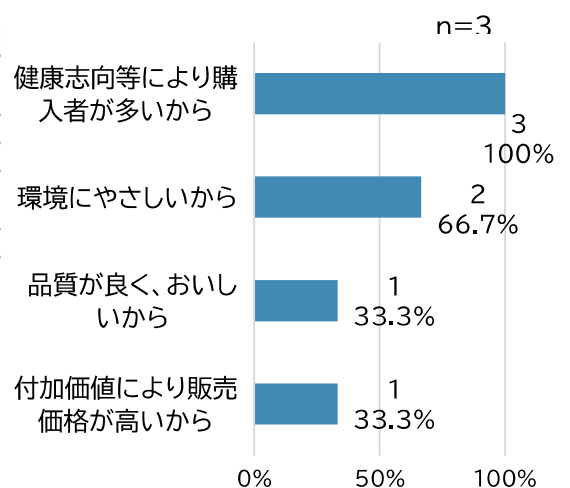
	回答数	割合
取り組みたい	3	30.0%
取り組みたいと思わない	7	70.0%
合計	10	100%



(1)-1 取り組みたい その理由(当てはまるもの全てに○)

「健康志向等により購入者が多いから」が100%となっている。

	回答数	割合
健康志向等により購入者が多いから	3	100%
環境にやさしいから	2	66.7%
品質が良く、おいしいから	1	33.3%
付加価値により販売価格が高いから	1	33.3%
その他	0	0.0%



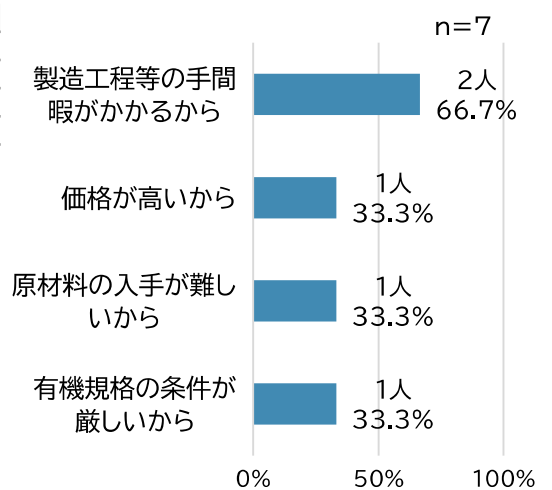
(1)-2 取り組みたいと思わない その理由(当てはまるもの全てに○)

「製造工程等の手間暇がかかるから」が最も多く66.7%となっている。

	回答数	割合
製造工程等の手間暇がかかるから	2人	66.7%
価格が高いから	1人	33.3%
原材料の入手が難しいから	1人	33.3%
有機規格の条件が厳しいから	1人	33.3%
その他	3人	100%

【その他】

現在の業務では使用しないため
飲料には使用しにくい
デメリットがあるため



(2)有機米や有機えごまを原材料にした加工食品で考えられる商品をお聞かせください。

【有機米】
日本酒
酒米
寿司 おにぎり
ます寿し

【えごま】
おにぎり

問4 今後、貴社において有機農産物を原材料とした加工食品を製造・販売する場合において、行政に求める支援や課題について、ご自由に記入してください。

自由意見
設備導入の補助金を出してほしい。
補助金
当社は特別栽培米コシヒカリを使用しております。一般的なお米より高額ですが、農薬は最小限に抑えてあり、安心安全で味も良いと思います。有機農法はとても良いと思いますが、病害虫の防御が出来ないというデメリットもございます。毎年一定量のお米を使用しますので、病害虫にやられて納品できないのでは大変困るため問3は”2”にしました。
商品の市場PR展開を期待

富山市有機農業実施計画(案)

1. 市区町村

富山市

2. 計画対象期間

令和 6年度 ~ 令和 10年度

3. 対象市区町村における有機農業の現状と5年後に目指す目標

ア 有機農業の現状

本市の農林水産業は、水深1,000mの富山湾から標高 3,000m級の北アルプス立山連峰まで、標高差 4,000mの雄大な自然が育む豊かな水資源を活かし、水稻を中心とした多様な農産物が生産されている。近年、農業従事者の高齢化や少子化の進行による後継者不足、耕作放棄地の増加、農産物価格の低迷による所得の伸び悩みに加え、中山間地域では有害鳥獣による被害が増加するなど様々な課題に直面している。

その状況の中、本市を流れる神通川左岸の中山間地域である小羽地域とその対岸に位置する岩木、岩木新地区等では、2つの法人が有機農業に積極的に取り組み、生物多様性など環境の保全や雇用の創出など、本市における持続性のある農業のモデル地区となっている。

また、市内のあおば農協管内では、有害鳥獣被害の少なさとその効能から中山間地域で有機えごまの特産化を目指している。

このことから、本市では、IoT 技術を活用したスマート化の推進や、えごまの栽培支援に加え、富山えごまとしてのブランディングや6次産業化の推進を担い、生産者や流通、加工、販売まで地域ぐるみで取り組んでいる。

イ 5年後に目指す目標

本市の持続可能な農業のモデルである小羽と岩木、岩木新地区の取組みを市内外へ発信することにより、中山間地域を中心に有機農業を普及、取り組みを拡大させ、慣行農業と有機農業がバランス良く展開した、生産性と持続性が両立する富山市農業を目指す(図1)。

有機JAS取組面積拡大	R4: 74.6ha	→R10: 81.6ha(+7ha)
米	74.6ha	→ 76.6ha(+2ha)
えごま	0ha	→ 5.0ha(+5ha)
有機JAS取組み農業者の増加	R4: 5人	→R10: 8人(+3人)
米	5人	→ 6人(+1人)
えごま	0人	→ 2人(+2人)
有機えごま販売数量(実換算)	R4: 0kg	→R10:1,500kg

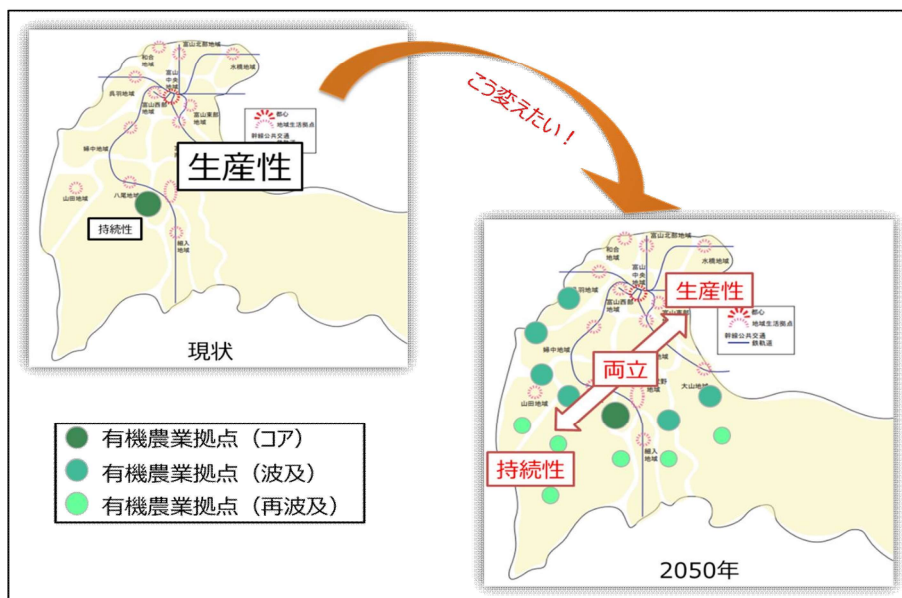


図1:推進イメージ

<p>4. 取組の推進体制</p> <p>ア 実施体制図</p> <p>※実施に必要な組織、委託先等を記載すること</p> <p>別紙のとおり</p> <p>イ 関係者の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山市 有機農業実施計画の実施に必要な事務及び農業者への支援 ・富山県 事業遂行への協力・アドバイス ・富山市有機農業推進協議会 有機農業実施計画の実現に必要な取り組みの検討・助言、計画の進捗管理 ・有機農業者 有機農業の生産拡大に係る取組の実施・有機農業転換希望者への指導等 ・農業協同組合 有機農産物の集出荷や有機農業等資源循環型農業の推進 ・流通業者 有機農産物の販売取扱、地域資源循環や環境保全に対する理解の向上と有機農業のPR ・富山市内の学校 学校給食へ有機農産物の導入によるSDGsや食農教育の推進 ・加工業者 有機農産物の取扱いや地域資源循環や環境保全に対する理解の向上と有機農業のPR、海外輸出の推進 ・消費者 有機えごまを原料とした市内産えごま油飲用体験による有機農業の消費拡大 有機農産物の購入による持続可能なまちづくりに対する理解の向上、SDGsの実践
<p>5. 資金計画</p> <p>別紙のとおり</p>
<p>6. 本事業以外の関連事業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ①有機転換推進事業:新たに有機農業に取り組む農業者の初年度に必要な土づくり資材等への支援 ②有機JAS認証取得支援事業:有機JAS認証の取得に必要な経費に対する支援 ③みらい農業推進事業:有機農業に必要な農業用機械の導入支援
<p>7. みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について</p> <p>※基本計画と本実施計画との関連性等必要に応じて記載すること</p> <p>有機農業に先進的に取り組まれている、神通川左岸の富山市小羽地域(須原(すわら)、長川原(なんから)、小羽(こば)、葛原(つづはら)、下伏(げぶせ)、土(ど)、根上(ねのうえ))、対岸の岩木(いわき)地域、岩木新(いわきしん)地域、を本市の有機農業取組のモデル地区とし、他の中山間地域等へ普及拡大することを目指すことから、富山県みどりの食料システム基本計画第2章3(1)の特定区域に設定する。</p>
<p>8 その他(達成状況の評価、取組の周知等)</p>

5 資金計画

実施体制（案）

有機農業者
その他の経営体

- ・イベントへの出品
- ・計画推進段階での参画

有機農業者
大沢野地域

- ・有機栽培実践普及活動

講師

日本えごまの会
有機農業団体

- ・有機えごま栽培指導
- ・有機農業技術指導
- ・有機JAS認証取得

協議会委員

協力

流通関係

(株)富山中央青果

- ・学校給食利用促進
- ・有機農産物販売促進

異業種

酒造メーカー

- ・有機酒米を使った日本酒

学校給食関係団体

富山市学校給食会

- ・学校給食利用促進

健康づくり

体育協会

- ・「富山えごま」消費推進

富山市
関係部局

教育委員会
環境部

- ・学校給食利用
- ・SDGs環境未来都市推進

事務局

富山市農業水産課

- ・事業実施運営管理
- ・関係機関等との調整
- ・検討会の開催(3回)

学識経験者

大学教授

- ・計画推進協力

生産者関係

あおば農協
富山市農協
なのはな農協

- ・栽培拡大支援
- ・産地づくり支援
- ・有機農産物販売促進

有機栽培用機械
農機メーカー

- ・機械デモンストレーション

アドバイザー

富山県農林振興センター
富山県農業技術課

委託事業者

事務局支援

富山市有機農業推進協議会





立山あおぐ特等席。富山市



富山市長
藤井裕久

(案)

富山県みどりの食料システム基本計画

令和5年3月作成

令和6年3月改定

富山県、富山市、高岡市、魚津市、氷見市、滑川市、
黒部市、砺波市、小矢部市、南砺市、射水市、舟橋村、
上市町、立山町、入善町、朝日町

今後の予定

令和6年2月13日	第4回富山市有機農業推進協議会
令和6年2月中	富山市有機農業実施計画及び宣言の修正 市内部調整
令和6年3月中	富山県と調整
令和6年3月末	富山市有機農業実施計画策定とオーガニックビレッジ宣言
令和6年4月以降	富山市有機農業実施計画の推進 推進内容は別紙参考資料参照（取扱注意）